

出張報告書

報告担当：伊藤正

報告日：2006年12月10日

出張先：マカオ

出張期間：2006年12月2日（土）～6日（水）

出張者（3名）

- ・ 市川恵美子 委員長兼国際部長（WASLIアジア地域代表者）
 - ・ 伊藤正 事務局員兼国際部員（WASLI理事会の共同作業）
 - ・ 長崎千佳恵 国際部員
- 他に秋月倫子（国際部員）が自費参加

1 行程

- ・ 12月 2日（土）出発（マカオ着・登録）
- ・ 12月 3日（日）「第18回世界ろう連盟アジア太平洋地域代表者会議」出席
- ・ 12月 4日（月）同会議出席（WASLI報告）、手話通訳者会議開催
- ・ 12月 5日（火）同会議出席（手話通訳者会議報告）
- ・ 12月 6日（水）帰国

2 活動内容

(1) アジア太平洋地区手話通訳者会議の開催

日時：2006年12月4日（月）13：00～17：30

会場：Hotel Royal Macau内（上記会議のプログラムとして開催）

出席：マカオ（2）、パキスタン、シンガポール、マレーシア、フィリピン、タイ、香港、中国、韓国、日本（全通研4・土協会2）（8カ国、2地域、17人）
オブザーバー2名（オーストラリア、スコットランド）

上記出席者以外にカンボジアの状況報告あり（オーストラリア担当）

進行：言語は英語。ただし参加者全員が英語に堪能ではないため参加者同士のフォローあり（例：英語 日本語、英語 中国語、英語 国際手話、各国の手話表現）。

記録は別紙参照 通訳：伊藤、長崎、 記録：土協会、秋月

配布資料：全通研資料（会則・よりパン〔英語版〕・DVD）、WASLI会則

- ・ 開会 / 会議趣旨説明
- ・ 参加者自己紹介
- ・ カントリーレポート
手話通訳者組織の有無
手話通訳制度の概要：有無と有の場合の概要（養成、認定、職業性の有無）
- ・ 今後の取り組みについて
会議の継続開催の意思確認、連絡組織設立の確認、WASLI加入呼びかけ

特記事項

会議開催にあたり、全日本ろうあ連盟のアジアろう者友好基金からの補助により、手話通訳者の参加費補助（1カ国1人・350ドル）を実施した。

補助対象国：中国、パキスタン、タイ、フィリピン（4カ国・1400ドル）

(2) 世界手話通訳者協会 (WASLI) の報告

日時：2006年12月4日 (月) 9：30～10：30

報告：市川委員長 (WASLI アジア地区代表)

内容：別紙報告書のとおり

3 成果

(1) アジアで初めての手話通訳者の国際会議開催

アジア地域の手話通訳者関連情報でわかったこと

- ・手話通訳者組織はほとんど設立されていない
- ・ほとんどの国で手話通訳者の数が少ない (10人以下の国が多い)
- ・手話通訳制度がほとんど整備されていない (資格認定、養成)
- ・参加費補助が、参加国確保に有効な手段であること

共通理解 / 賛同を得た事項

- ・手話通訳者の会議が有意義であること
- ・アジア諸国における手話通訳者が今後連絡を取り合うこと。
- ・連絡網について当面事務局は全通研が担当すること。

理解を広めた事項

- ・WASLIの発足と参加呼びかけ (加盟、スペイン会議への参加)
- ・全通研の活動
- ・日本の手話通訳制度の内容

(2) WASLI の P R

A P 会議出席者 (アジア太平洋諸国のろう者組織代表者) に WASLI の活動と事業内容を説明し理解を広めることができた。

(3) アジア各国との交流 (コンタクト先の情報収集)

参加国 / 地域からの参加者と名刺交換して各国の連絡先情報を確保した。

別紙参照

4 今後検討を要する点

ほとんどのアジア地域諸国には手話通訳者組織がないことから、今後予想される会議開催にあたっての「参加者の要件設定」「会議の目標設定」

「参加費支援」の実施の可否とその方法

「A P 会議の一環」という会議のあり方

手話通訳者組織の設立支援の具体的方法

手話通訳制度確立支援の具体的方法

アジア地域における手話通訳者ネットワークの役割の検討